

平成27年度

学校関係者評価報告書

評価期間 自:平成27年4月 1日  
至:平成28年3月31日

平成28年 5月20日

学校法人呉学園

専門学校日本デザイナー学院

## 目次

1. 学校の教育目標 .....	P2
2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 .....	P2
3. 点検項目の評価結果 .....	P2～9
(1)教育理念 .....	P3
(2)学校運営 .....	P3
(3)教育活動 .....	P4
(4)教育成果 .....	P4
(5)学生支援 .....	P5
(6)施設整備 .....	P6
(7)学生募集 .....	P6
(8)財務 .....	P7
(9)法令順守 .....	P7
(10)社会貢献 .....	P7
(11)国際交流 .....	P8
4. 学校関係者評価委員の評価結果について .....	P9

## 1. 学校の教育目的

日本デザイナー学院は、高度に進歩する産業社会において生活と文化に携わる有能なクリエイターを養成することを目的とし、その職能上必要とされる技能を履修させ、教養を積み、同時に人間形成に努め、社会人としての自覚と責任をもつ人材の育成を使命とする。

## 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

- 1) 課題解決能力やコミュニケーション能力を養うことを目的とした学生活動に対する支援。
- 2) クリエイティブ業界と学生のニーズを反映し、バランスのとれたカリキュラム編成。

## 3. 点検項目の評価結果

自己点検・評価結果(4…適切 3…ほぼ適切 2…やや不適切 1…不適切)を基に、学校関係者評価委員会で点検・評価を行った。

### 【学校関係者評価委員会】

委員長(業界関係者代表)	長田 智行 (株式会社シフカ 代表取締役)
委員(教育関係者代表)	川村 順一 (宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部教授)
委員(卒業生代表)	楠原 幸時 (校友会副会長・クスハラデザイン代表)
委員(地域代表)	深澤 一郎 (特定非営利活動法人 渋谷駅周辺地区まちづくり協議会常務理事)

事務局	野口 朝夫(校長)
	慶原 伸浩(事務局長)
	齋 英智(教務課長)
	丹下 哲成(学生課)
	宮部 覚(学生課)

## (1) 教育理念に関すること

1-1)	教育理念・教育目標は示されているか	4…適切
1-2)	学校の特色は示されているか	4…適切
1-3)	学校の将来構想は示されているか	4…適切
1-4)	学校の理念・目的・特色などが学生・保護者に周知されているか	3…ほぼ適切
1-5)	各学科の教育目標、人材育成像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3…ほぼ適切

本校の教育理念は、『「超実践教育サービス」の提供を通して、自立的で個性豊かなクリエイターを育成し、社会に新しい価値を創造し、共に成長する』(Real Education＝実践に即した教育)としている。「生活と文化に携わる有能なクリエイターを育成する」ことを目的とし、昭和40年4月1日に創立した。以来51年間、その精神を受け継ぎながら、専修学校制度の範疇で教育事業を継続している。

本校の特色は、「基礎から丁寧な指導」「授業時間数の約8割が実技実習科目」「企業や地域との実践的なコラボレーション」であり、入学してすぐに行うスターティングワークショップは、コミュニケーションを主体としたプログラムで無理なくスタートできるようにしている。また、「職業教育」と「キャリア教育」にも力を入れている。専門知識・技術の修得と並行して、プレゼンテーション能力を養う作品発表会、デビューの為に出版社編集部による「作品添削会」「持ち込み企画会」などの教育手法を取り入れ、学生の目標達成の為に様々な企画を行っている。常に新たな挑戦を行い、大きく変化する社会や世界に通用する感性豊かな技術者の育成を目指している。

学校の理念・目的・特色は、入学前の学校説明会・学校案内書・オフィシャルサイトに記載し周知している。学生に対しては「学校要覧」に明記し入学後のオリエンテーションにおいて周知している。保護者に対しては入学式に配布する資料に明記し周知している。

### ◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「教育理念に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

## (2) 学校運営に関すること

2-1)	運営方針は定められているか	4…適切
2-2)	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3…ほぼ適切
2-3)	運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	3…ほぼ適切
2-4)	人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	3…ほぼ適切
2-5)	意思決定システムは確立されているか	3…ほぼ適切
2-6)	業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3…ほぼ適切
2-7)	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3…ほぼ適切
2-8)	情報システム等による業務の効率化が図られているか	3…ほぼ適切

運営方針は、教育理念を具現化するためにあり、これを専修学校制度に合わせて、第8分野の文化・教養技術教育に特化した専修学校の運営であると考えている。

運営組織・意思決定機関である理事会、評議員会を定期・不定期に開催し、事業計画も毎年学校運営に沿って策定され理事会、評議員会において承認を得ている。

人事考課制度については、目標管理制度を導入している。年度初めに職員1人ひとりが目標を設定し、達成度・結果を踏まえて人事考課を行っている。この人事考課に基づき昇給および賞与を決定している。職員採用、試用期間、懲戒処分、解雇基準、昇格降格制度については就業規則で定めている。等級別俸給・各種手当は、給与規程で定めている。

意思決定システムについては、各部署の責任者が、その責任範囲に該当する案件については意思決定権限を持つ。自らの責任範囲を超える案件は上申して上司の判断を仰ぐ。特定の案件の意思決定については稟議制を採用している。

教育活動に関する情報公開については、オフィシャルサイトやメールマガジン、印刷物などを発行し定期的に行っている。業務に効率化については、情報システムを導入しており常に改善している。

### ◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「学校運営に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

### (3) 教育活動に関すること

3-1)	教育理念等に沿った教育課程に編成・実施方針等が策定されているか	3…ほぼ適切
3-2)	カリキュラムは業界の人材ニーズに対応しているか	3…ほぼ適切
3-3)	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3…ほぼ適切
3-4)	キャリア教育・実践的な職業教育の視点にたったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが反映されているか	3…ほぼ適切
3-5)	定期的にかリキュラムの見直しはなされているか	4…適切
3-6)	関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3…ほぼ適切
3-7)	成績評価の基準は明確になっているか	3…ほぼ適切
3-8)	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3…ほぼ適切
3-9)	授業評価は実施されているか	4…適切
3-10)	資格取得等に関する指導体制やカリキュラムはできているか	3…ほぼ適切
3-11)	人材育成目標の達成に向けて授業を行う講師を確保しているか	3…ほぼ適切
3-12)	関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネージメントが行われているか	3…ほぼ適切
3-13)	関連分野における先端的な知識・技能等を取得するための研修や教員の指導力育成や向上のための取り組みが行われているか	3…ほぼ適切
3-14)	職員の能力開発のための研修等が行われているか	3…ほぼ適切

業界の人材ニーズに対応できるよう様々な関連分野の企業・業界団体と連携し、意見をカリキュラムに反映させている。また、講師と連携を保ちながら定期的にかリキュラムの見直しを行いより実践的な職業教育に努めている。

全学科共通科目のホームルーム内において、キャリアデザイン教育を行っている。

成績評価・単位認定に関しては、定められた基準に従って行っており、その基準は「学校要覧」に示されている。

授業の評価に関しては、学生による授業アンケートを年2回(前期末・後期末)実施しており、講師にフィードバックアンケート結果を授業に反映・活用している。

関連分野の先端的な知識・技能取得や指導力の向上のため定期的に教職員への研修を実施している。

#### ◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

デジタル化が進みいろいろな事ができる状況である。デザインやクリエイティブな面だけでなく、生活が楽になったり楽しくなる仕組みを考える科目、デジタルを活用することによるメリット・デメリットやツールの使い方などが学べる科目を創るべきではないか。(川村委員)

2017年度の「企画デザイン科」のカリキュラムに組み込むよう検討する。また、新設学科として予定している「ソーシャルデザイン科」のカリキュラムに組み込むことを検討する。(事務局)

### (4) 教育成果に関すること

4-1)	就職率を向上させるための施策は図られているか	4…適切
4-2)	資格取得の向上が図られているか	3…ほぼ適切
4-3)	退学者を減らすための施策は図られているか	3…ほぼ適切
4-4)	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3…ほぼ適切
4-5)	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3…ほぼ適切

就職指導にあたってはクラス担任とキャリアセンターが連携して学生個々の希望や適性を把握し、学生にあった企業の斡旋を行うことで就職率のより向上に努めている。デビュー希望者については講師と連携を保ち、出版社編集部による「作品添削会」などを活用しながら多くの学生をデビューさせている。

欠席者に対してはクラス担任により早期に連絡、個別指導を行うことで退学率の低減を図っている。

卒業生の活躍及び評価は卒業生、校友会、出版社、企業との連携を保ち情報の収集に努めている。

また、入学案内書などの印刷物やオフィシャルサイト、学内の掲示板、校友会のメールマガジン等において、卒業生の受賞や個展、グループ展などの案内を定期的に行っている。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 大学ではメディア系は就職よりフリー希望が多いが、就職率の数字を気にしている。学校側の姿勢として就職活動支援のみでなく学校側がフリーランス希望者や作家希望者への積極的な活躍の場づくり、社会との接点を創出することが重要である。(川村委員)
- 就職率の向上を図るためには、会社説明会などの回数をより増やすことで就職意識を高め、社会との接点を創出することが重要である。(長田委員長)
- 作家希望者の対象の「作品添削会」「持ち込み企画」や就職希望者対象の「会社説明会」を実施している。加えて「職場見学会」を多く実施している。職場を見学させ、職業意識を高める意味では効果があった。(事務局)

(5) 学生支援に関すること

5-1)	就職に関する支援体制は整っているか	4…適切
5-2)	学生相談などの支援体制はどうか	3…ほぼ適切
5-3)	学生への奨学金等の経済的支援はどうか	3…ほぼ適切
5-4)	学生の健康管理はどうか	3…ほぼ適切
5-5)	課外活動に関する支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
5-6)	学生寮等の支援体制は整備されているか	3…ほぼ適切
5-7)	保護者と適切に連携しているか	3…ほぼ適切
5-8)	卒業生への支援体制はあるか	3…ほぼ適切
5-9)	社会人ニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3…ほぼ適切
5-10)	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	3…ほぼ適切

本校の就職支援はキャリアセンターが担当。キャリアセンター内に企業情報、求人情報、入社試験情報の検索専用PCを設置し、在学生及び卒業生の就職活動を支援している。大学編入の支援も行っている。

また、本校の大きな進路の特徴の一つにデビューがある。出版社編集部による「特別講義」「持ち込み企画会」「作品添削会」の企画運営やコンテスト情報の提供など様々な支援を行っている。実績として、マンガ料では5年間で1626作品のマンガ雑誌掲載及び受賞者を出している。

学生相談などの支援としてクラス担任が定期的にカウンセリングを行い、保護者とも連絡を密にして問題解決に当たっている。留学生については留学生担当者を配し、修学・生活支援を行っている。

学生に対する経済的な支援体制は、呉学園特待制度など様々な学費を減免する本校独自の特待制度を設け支援を行っている。その他公的制度として、日本学生支援機構奨学金制度、東京都育英資金、国の教育ローンを適宜紹介・斡旋する。民間の新聞奨学生制度、提携信販会社の教育ローン、財団法人の国際交流奨学金なども適宜紹介・斡旋する。

学生の健康管理については、学校保健安全法に基づく定期健康診断を毎年4月に実施している。また校医による健康相談も適宜行っている。

サークル活動や外部作品展などの課外活動に対して様々な支援を行っている。

学生寮は、数社の学生専用寮管理会社と提携し、学生の希望に応じて紹介している。学生専用寮管理会社と連携を保ち生活面のサポートも行っている。

保護者との連携は、成績表を送付、状況に応じて学生個々の様子を保護者に連絡、支援を依頼するなど綿密に情報交換し適切に行われている。

卒業生への支援は、校友会を通してのメールマガジン配信、卒業生向け講座などを行っている。また、卒業生への生涯サービスとして、卒業後の転職相談や就業上の悩み相談などを受けアドバイスを行っている。

高等学校等と連携したキャリア教育・職業教育の取り組みとして、出張体験講座や業界説明会などを実施している。

◎学校関係者評価委員会コメント

- デジタル化が進んでいることもあり、卒業後10数年経過していると学び直したい層がいるのではないかと。(川村委員)
- 卒業生への支援として、デザインソフトを再度学ぶ場が欲しい。母校があれば参加し易い。新たな教育コンテンツになるのではないかと。(楠原委員)
- 卒業生向けに今後夜間部の時間帯にソフトの勉強会を開催したい。新たな教育コンテンツとして検討する。(事務局)
- 大学でも心の問題を抱えた学生が増加している。しっかりとしたサポート体制を組むことが必要。(川村委員)
- 卒業生の支援体制をより強化する為に、特に活躍している卒業生の把握に力を入れなければならない。(楠原委員)

## (6) 施設設備に関すること

6-1)	施設・設備はカリキュラムに対応出来ているか	3…ほぼ適切
6-2)	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3…ほぼ適切
6-3)	防災体制は整っているか	3…ほぼ適切

渋谷はクリエイターの育成にとって最適な立地である。施設・設備としては、2D、3DCG、CGアニメーション、Webデザイン、映像クリエイティブワークができるコンピュータ実習室を始め、木工室、製図室、撮影スタジオ等実習設備を整えている。作品出力用機器は学生ホール、図書室にも設置している。また、学生達のくつろぎスペースとして学生ホール(学期期間中は9:00～21:30まで開放)を設けている。

防災対策については、施設の法定消防設備点検、建築設備点検を行っている。災害時の帰宅困難者への支援対策として、保存食糧、保存飲料水、簡易トイレ、簡易寝具等の災害備蓄品を常備するとともに、学生・教職員への安全対策の徹底を図っている。

### ◎学校関係者評価委員会コメント

- 災害時の帰宅困難者に対する支援体制はどのようになっているのか。渋谷区と困難者の受け入れの協定は結んでいるのか。(深澤委員)
- 災害備蓄品を常備をしているが、学生の支援を優先目的としており渋谷区と帰宅困難者受入協定は結んでいない。今後検討が必要。(事務局)

## (7) 学生募集と受け入れに関すること

7-1)	学生募集活動は適正か	4…適切
7-2)	学生募集に教育成果は反映されているか	3…ほぼ適切
7-3)	入学選考の時期・基準・方法は適正か	4…適切
7-4)	納付金は妥当なものとなっているか	4…適切

本校の学生募集活動は、各種進学情報誌の掲載、マスメディアやオフィシャルサイトからの情報発信に加え、高校内や各都市で実施される会場説明会等に参加している。また、高校や日本語学校などに対して、卒業生の就職状況やデビュー状況などを報告し、学校間の信頼関係の構築に努めている。志願者対象にオープンキャンパスを実施し、希望する学科と学習内容とのマッチングができるよう個別相談なども行っている。

就職・デビュー、卒業生の活躍、在校生・卒業生の受賞などの実績を正確に把握し、入学案内書およびオフィシャルサイトにおいて情報の提供発信に努めている。各学科の学習内容や成果についての資料をオープンキャンパス等で配布し、学生募集に教育成果を反映させている。

入学選考・時期・基準・方法は、加盟する東京都専修学校各種学校協会での取り決め及び監督官庁である渋谷区の指導に基づき、適正に行っている。高等学校推薦入試・一般入試に加え、AO入試・自己推薦入試・指定校推薦入試など多くの選考方法を採用し適正に実施している。

納付金額については、本校が提供する教育内容、施設から算出し、毎年同分野他校との比較検討を行い、妥当な金額であると認識している。また、支払い時期は募集要項に明記している。

### ◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

- 募集に関しては、専門学校は大学と違い2年間で技術・知識が学べるのでシニア層などに可能性があるのではないか。(長田委員長)
- マンガやイラストは年齢に関係なく仕事ができる分野なので、現在試験的に実施している。(事務局)

## (8) 財務に関すること

8-1)	中長期的に財務基盤はどうか	3…ほぼ適切
8-2)	予算・収支計画は有効かつ妥当か	3…ほぼ適切
8-3)	会計監査は適正に行われているか	4…適切
8-4)	財務情報公開の体制整備はできているか	3…ほぼ適切

学校法人として、教育活動の充実および持続性が必要である。施設・設備の整備、教職員の研修等で経費支出が増加する傾向にあるが、経費全体の見直しを行い財務基盤の強化に努めている。一定数の入学者の確保と退学者を減らすことにより、より高水準の財政基盤の確保を目指している。

資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表・財産目録の主要な財務諸表を参考とし、次年度以降の収支計画、予算を編成している。年度予算は、本校の目的・目標及び事業計画に鑑みて、有効かつ妥当なものである。

本校では、公認会計士(監査法人)による会計調査を受けており、私立学校法および寄附行為にもとづき、選任された2名の監事が財務会計監査を実施している。計算書類(資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録)を事業報告書と共に理事会に提出し承認を得ている。

財務情報の公開をオフィシャルサイトにて行っている。

### ◎学校関係者評価委員会コメント

※「財務に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

## (9) 法令順守に関すること

9-1)	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4…適切
9-2)	個人情報に関して、その保護のための対策がとられているか	3…ほぼ適切
9-3)	自己評価の実施と問題点について改善に努めているか	3…ほぼ適切
9-4)	自己評価結果を公表しているか	3…ほぼ適切

本校は関連法規、国や地方自治体からの改正等にも速やかに対応して事務処理を行った上で適切な運用を行い、法令や設置基準を遵守すべく最善の努力をしている。

個人情報の保護に対しては、学生には入学時に配布する「学校要覧」に個人情報の取り扱いについて記載し、「個人情報確認同意書」の提出を義務付けている。教職員には「個人情報の取扱に関する同意書」の提出を義務付け、個人情報の取り扱いに関して細心の注意を払うよう指導している。

自己評価は、毎年度実施。オフィシャルサイトにて公表し、職能教育機関として改善・改革を推進すべく努力している。

### ◎学校関係者評価委員会コメント

※「法令順守に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

## (10) 社会貢献に関すること

10-1)	教育資源や設備を活用しての社会貢献はなされているか	3…ほぼ適切
10-2)	学生のボランティア活動に対する支援はどうか	3…ほぼ適切
10-3)	地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3…ほぼ適切

社会貢献を通して地域から信頼される学校を目指し、町内会等の実施する各種祭事・地域行事に積極的に参加している。また、各種業界団体が行う研修会や試験会場・スクーリーグ会場等へ教室などの学校施設を開放している。学校施設を開放した団体には、商業施設技術団体連合会、文科省・成長分野等における中核的専門人材養成戦略的推進事業(マンガ分科会)、多摩高等学校進路指導協議会、北海道芸術高等学校等がある。

学生のボランティア活動は、社会性や協調性を養うための、重要な活動と位置づけ様々な支援を行っている。

学生のボランティア活動の実績として、渋谷音楽祭(特定非営利活動法人渋谷駅周辺地区まちづくり協議会)・多摩南部

地域病院ホスピタルアート・似顔絵イベント(東急百貨店日吉店)・川崎フロンターレファン感謝祭似顔絵イベント(川崎フロンターレ)、壁画制作(なんつつ亭大磯店)、伊賀流忍者グッズデザインコンテスト(三重県伊賀市)・超人スポーツ協会イラスト大会等多数がある。

地域に対する公開講座・教育訓練の受託については、「中村佑介先生(イラストレーター)特別講義」「ポスターデザインメイキング講座(楠原幸時氏)」「福島治氏特別講義(東京工芸大学教授)」「マンガ業界講座」など積極的に実施している。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

□渋谷音楽祭での積極的な地域支援活動には本校の強い意志が感じられ評価できる。桜丘町エリアは今後大規模な再開発が予定されており、本校が従来から活発に地元で展開しているアート活動などの美化活動の延長上で、工事中あるいは竣工後の街の景観の向上に大きく貢献して欲しい。(深澤委員)

(11) 国際交流に関すること

11-1)	留学生の受け入れ・派遣について戦略を持って行っているか	3…ほぼ適切
11-2)	留学生の受け入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか	4…適切
11-3)	留学生の学修・生活指導等について学内に適切な体制が整備されているか	3…ほぼ適切
11-4)	学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3…ほぼ適切

留学生の受け入れについては、日本語学校の成績・出席状況を確認すると共に本校独自の日本試験を実施し授業を理解できる日本語能力を身につけている留学生のみ入学を許可している。本国からの直接受け入れも行っているが、日本語能力試験N2を取得しており、日本在住の留学生と同様に本校独自の日本語試験に合格した留学生のみ受け入れている。

在籍管理等については、留学生担当者を配置し出席確認(毎日)・健康管理・査証管理など修学及び生活支援を行い、適宜入国管理局への報告を行っている。留学生の日本国内での就職支援を行っており多くの留学生が日本で就労している。又、学習の成果として様々なコンテストなどに参加させ実績を残している(デジタルマンガキャンパスマッチイラスト部門ワコム賞等)。

◎学校関係者評価委員会コメント・質疑

※「国際交流に関すること」については評価者からのご意見はありませんでした。

#### 4. 学校関係者評価委員の評価結果について

上記報告書は、学校関係者評価委員として、  
妥当な評価であることを確認し、認めます。

平成28年 5月 20日

学校関係者委員長	株式会社シフカ 代表取締役 長田 智行
学校関係者委員	宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部教授 川村順一
学校関係者委員	校友会副会長・クスハラデザイン代表 楠原 幸時
学校関係者委員	特定非営利活動法人 渋谷駅周辺地区まちづくり協議会 常務理事 深澤一郎